

東京電力ホールディングス（株）福島第一 原子力発電所の廃止措置等に向けた 分析体制の強化に係る状況について

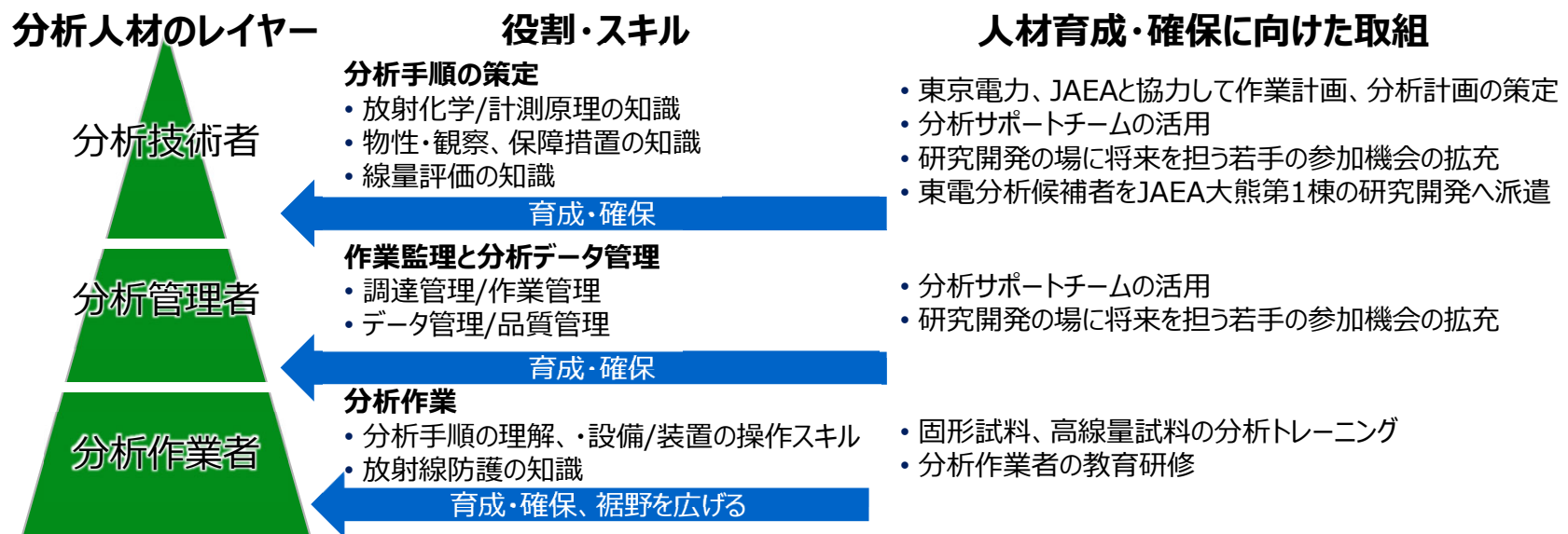
2023/12/15

福島第一原子力発電所廃炉・事故調査に係る連絡・調整会議

資源エネルギー庁

1. 人材育成・確保に向けた取組

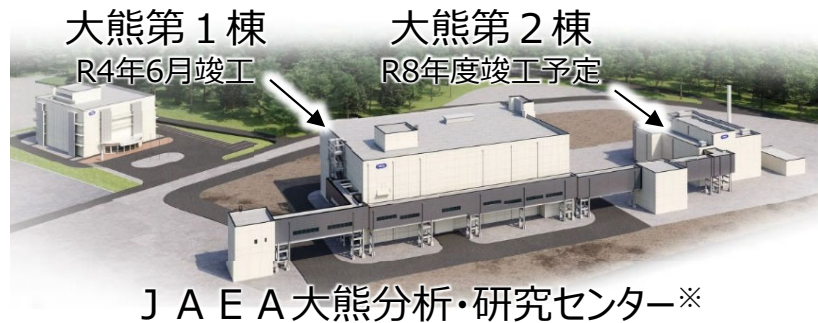
- 東京電力では、総合分析施設の立ち上げに向けて、分析技術者候補を1名 JAEA 放射性物質分析・研究施設第1棟（以下、「大熊第1棟」という。）へ派遣し、OJTとして研究開発に参加させ、分析技術者の育成を併せて実施。（東京電力より詳細報告）また、JAEA 大熊第1棟にて固体廃棄物の分析経験をさらに積むべく、分析作業者に対する分析のトレーニングを実施中。
- JAEAでは、中長期的な視点に基づき大学などと連携し、新たな分析手法の開発、その検証を行うとともに、それらを通じて若手人材を育成するなど、高度な人材育成の場としての活用も検討していく。これと併せて分析手法の研究開発等に必要な予算を計上したR5年度補正予算が成立。
- 将来の分析作業者となる可能性のある人材の裾野を広げるための分析人材育成のプログラムについて今年度内の実施に向け関係機関で調整中。



2. 分析施設整備に向けた取組

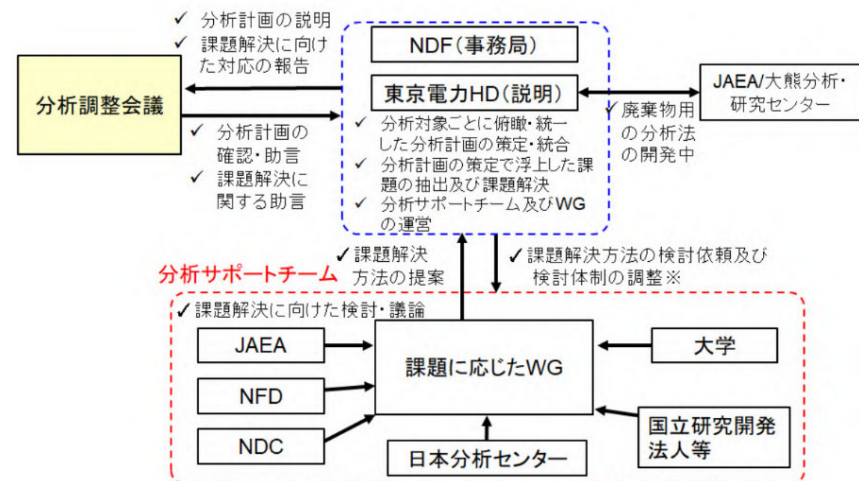
- 大熊第1棟にて実施してきた標準的な分析手法の整備が実質的に完了。一部サンプルはR5年度に分析予定。R6年度以降はこれらの手法を用いて、分析計画を踏まえた着実な分析と研究開発を実施予定。分析業務量の増加にも対応出来るよう、分析能力の拡充、分析手法の合理化等の検討を加速する。
- JAEA放射性物質分析・研究施設第2棟（以下、「大熊第2棟」という。）では、実施計画の認可に向けて審査中であり、令和8年度内の竣工を目指す。また、そのために必要な建設費用を計上した令和5年度補正予算が成立。今後も建設費用の措置を継続していく。
- 東京電力による総合分析施設の仕様検討を進め、2020年代後半の竣工を目指す。
- 施設の分析能力拡充のための分析支援が出来るよう、NDFに新たに設置された分析調整会議及びその下部組織である分析サポートチームを活用していく。（NDFより詳細報告）

分析施設整備



総合分析施設
2020年代後半竣工予定

分析能力拡充



3. 分析を着実に実施していくための枠組み整備

- 廃棄物の分析目的に応じた分析対象核種や検出下限値の設定など、具体的な分析業務への落とし込みを東京電力、JAEAが協力して行っており、東電の分析計画やそれを踏まえたJAEAの業務計画の見直しに反映する予定。
- 東京電力において、R6年度以降の試料採取、分析を行う施設の確保、試料の輸送などに関わる工程全体の調整を実施中。また、引き続き分析と各廃炉作業との連携体制と機能の強化を行う。
- 現在の廃炉作業の進捗および東京電力の分析計画を踏まえ、技術戦略プランにおいて、『分析に関わる関係機関個別の実行計画』を新たに追加した。